

「新生JAXA」の新たなチャレンジ

独立行政法人
宇宙航空研究開発機構
理事長 奥村 直樹



最近、宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、H-II Aロケットにより2機の人工衛星を打ち上げました。一つは、今年2月の二周波降水レーダー「DPR」を搭載した「GPM主衛星」、もう一つは、5月の「だいち2」です。結果、H-II Aロケットは18機連続での打ち上げ成功となり、H-II Bロケット4機とあわせた成功率は、国際水準の目安95%を超えて96.4%になりました。

「GPM主衛星」は、諸外国の衛星と連携することにより、全球的な降雨観測を行い、気候変動や水循環変動の解明への貢献のほか、洪水予測、台風進路予測、天気予報の予測精度向上などへの利用が期待されています。一方、「だいち2」は、国内外の大規模災害に対し、高分解能かつ広域の観測データを迅速に届けたり、平常時の国土保全、森林保全等に利用され、「だいち」と比べ、3倍以上となる1~3mの分解能を実現したほか、観測幅も3倍程度に広げ、ほぼ1日以内に地球上のどんな場所も観測可能になりました。

これらの衛星の国内での効果的な活用はもとより、新興国における我が国の宇宙技術の利用促進を図るべく、最近、JICA(国際協力機構)と包括協定も締結させていただきました。

「だいち2」が打ち上げられた今年5月には、昨年11月に4度目の宇宙を目指しソユーズロケットに搭乗し打ち上げられた若田光一飛行士が長期滞在を終え、地球に帰還しました。長期滞在中、小型衛星の放出、4Kカメラによるアイソン彗星の撮影、微小重力環境を利用した実験など宇宙でしか実現できない数々のミッションを達成しました。今年3月には、アジアで初となる国際宇宙ステーション(ISS)の船長に就任しましたが、若田飛行士個人の能力はさることながら、ISSの「きぼう」日本実験棟の開発や運用、他の日本人宇宙飛行士たちの活躍など、日本の技術力や貢献が高く評価された結果だと考えております。

宇宙と空を活かし、安全で豊かな社会を実現します

私たちは、先導的な技術開発を行い、幅広い英知と共に生み出した成果を、人類社会に展開します

1. 人びとの喜び

私たちは、人類社会の生活を進化させることで、人びとの喜びや驚きを生み出します

2. 創造する志

私たちは、常に高みを目指し、どんな困難にも立ち向かう創造する志を持ち続けます

3. 責任と誇り

私たちは、社会からの信頼と期待に応えるため、責任と誇りをもって誠実に行動します

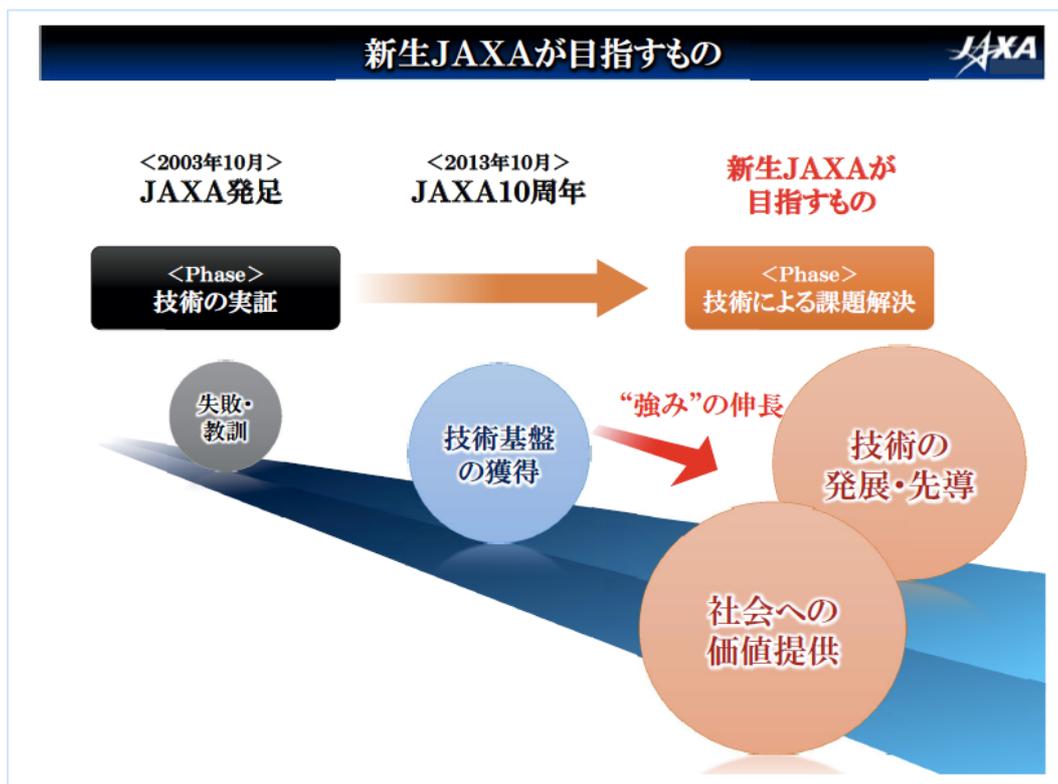
有人宇宙開発の分野でも、こうしたチャレンジを通じ、JAXAは世界を技術で支える機関として活躍しています。

探査の分野では、今冬に「はやぶさ2」の打ち上げを予定しています。「はやぶさ」で培った技術を基に、姿勢制御用のホイールを増やすなど信頼性を向上させ、1999JU3と呼ばれる小惑星に向かい、サンプル採取を行う予定です。生命に不可欠な炭素や水があると想定されており、生命の起源に迫る情報収集できることが期待されています。

昨年9月にはイプシロン試験機の打上げに成功し、今年度から新型基幹ロケットの開発にも本格的に着手しました。新型基幹ロケットは、2020年の初号機打ち上げを目指しています。いずれも民間打上げサービス市場へ参入を目指しておりますが、当該市場には実績のある欧露に加えて米国や新興国も参入を狙い競争の激化が予想されており、JAXAとしても確実に開発を推進してまいります。

このように、JAXAは2003年の設立から10年間に、着実に技術蓄積を行い、成果を挙げてまいりました。そうした技術実証成果をも踏まえ、昨年新たな宇宙基本計画が策定され、「宇宙利用の拡大」と「自律性の確保」を軸に、「安全保障・防災」、「産業振興」、「宇宙科学等のフロンティア」が重点課題とされました。また、JAXAは「政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的な実施機関」と位置付けられており、これらの幅広い政策課題へのよりの確な対応が求められることとなりました。

そのためには、これまでの技術蓄積を活かしつつも新たな課題に果敢にチャレンジし、宇宙技術の先導的な研究開発と社会の抱える様々な課題へのソリューション提供とに強力に取り組んでまいります。この取り組みにおいては、職員ひとり一人の意識改革を進めるとともに、業務方針の革新を図る必要があります。



こうした背景を踏まえ、昨年10月のJAXA設立10周年を機に、経営理念を「宇宙と空を活かし、安全で豊かな社会を実現する」、コーポレートスローガンを「Explore to Realize」として新たに設定し、「新生JAXA」として全社を挙げて取り組んでいるところです。スローガンには、JAXAの役割が多様化する中、活動の原点である「Explore」と、新たな経営理念を具体的に形にする「Realize」する組織へ生まれ変わろうとする決意を込めました。

社会への価値創出には、JAXAだけでなく、政府や産業界、自治体、学界等皆様との連携が不可欠です。これまで以上に、関係者の皆様方と緊密な、戦略的な関係を強化させていただきたく、よろしくご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。■

■ 奥村直樹理事長略歴

- 昭和48年 3月 東京大学大学院応用物理学・博士課程修了
- 昭和48年 4月 新日本製鐵株式会社
- 平成11年 6月 同 取締役
- 平成15年 4月 同 常務取締役
- 平成17年 4月 同 代表取締役副社長
- 平成19年 1月 総合科学技術会議議員（～平成25年1月5日まで）
- 平成25年 4月 宇宙航空研究開発機構理事長